

平成30年度第1回江南市図書館基本計画策定委員会議事録

日時 平成30年5月21日(月) 午前9時30分～午前11時45分

場所 江南市防災センター2階 セミナー室

出席委員 14名

伊藤 由香	愛知江南短期大学学長
小塚 昌宏	江南市社会福祉協議会事務局長
滝 紀彦	江南商工会議所専務理事
伊藤 鶴吉	江南市社会教育委員会会長
加藤 雅子	P T A連合会会長
伊藤 真理	愛知淑徳大学教授
大川内 元男	市民代表
三輪 陽子	市民代表
柴沼 清子	図書館ボランティア
中嶋 康子	図書館ボランティア
辻中 憲一	図書館館長
早川 由美	古知野南保育園長
松本 秀樹	古知野西小学校長
鵜飼 明美	古知野西小学校図書館司書

欠席委員 1名

山崎 昇暉	元成人の集い実行委員長
-------	-------------

【議事】

委員長の選出

伊藤(由香)委員を選出

副委員長の選出

滝委員を選出

議題(1) 図書館基本計画策定体制について

事務局：(資料1-2と別紙を説明)

現状の把握をし、その先に市民が何を求めているのかを把握していきたい。図書館に関する情報を市民と共有し、市民や図書館ボランティア、司書等と江南市の特性に合ったこれからの図書館のあり方を検討し、合理的かつ効果的な新しい図書館を構築する。

従来での図書館建設では補助金の対象とはならないが、布袋駅東への移設については、国土交通省の都市再構築戦略事業の位置づけとなり、交付金対象となる。そのため、財政負担を抑えながら、より充実した施設ができる。そのこと

を考慮して、布袋駅東複合公共施設へ移設することを前提として考えたい。規模は未定ではあるが、民間施設との併設・市の財政負担を合わせて考えると現時点で概ね3,000㎡を目安に考えていただければと思う。現在の延床が約1,000㎡、計画策定時のイメージは約3倍のものである。ただし、あくまでも3000㎡は目安なので増減することは十分ある。これから策定委員会を年4回想定し、アンケート、ワークショップを通じて市民の意見を吸い上げていきたい。

委員：図書館の計画が進むことはずっと望んでいたのですが、大変うれしいことであるが、基本計画を1年で策定するのは拙速と思われる。通常は2～3年かけて市民と情報を共有していく。図書館建設に関する情報を市民と共有し、十分に議論するべきではないか。別紙の新図書館の建設に関する経緯について、議会が立ち上げた特別委員会についての記載が無く、あわせて平成29年2月に猪谷氏による講演会を行った際に、アンケートを実施していたが、その結果を見ることはできないか。

事務局：平成8年から基金の積立を開始し、かなり長い年数を経て議論を重ねてきた。基本計画を作成すると決めた時は、実はどうのようにつくっていかうかを考えるための基本計画と考えていた。当初、布袋駅東複合施設におけるスペースとしては、200㎡で計画していた。しかし、通常であれば交付金の制度がない図書館でも施設に入れば交付金が入ることが判明したため、今までの基金を活かしながらより充実したものを建設できると考えた。もし交付金がなかったとすると、今回考えている規模と同規模のものを建てようとする、もう一度基金を積み直さなくてはならず、かなり先の建設となってしまふ。そこで、布袋駅東の複合施設に図書館を移設する、と市長が決断をした。時間がないのは重々承知しているが、布袋駅東複合公共施設整備事業のスケジュールとの兼ね合いで今年度中に基本計画を策定しなければならず、規模については11月末までに決定しなければならない。布袋駅東に移設することは、図書館行政にとってチャンスだと思っている。このチャンスを活かしたい。何卒ご理解をいただき、非常にタイトなスケジュールだがなんとかご協力いただきたい。
特別委員会についてと猪谷氏の講演会アンケートについては後程報告する。

委員：複合施設には、どのような企業が入るのか。どのようなものと一体となるかによって図書館のあり方も違ってくるかと思う。ある程度そういうものがわかっていないと計画はたてにくいのかなあと思う。

事務局：民間企業となるため、どのような企業が入るかは未定である。こういった形態かは調整中である。ただし、あくまでも人が集まる場所としての形態にはなる。

- 委員：面積が約 3,000 m²となると具体的は何階建てになるのか。
- 事務局：何階建てになるのか、商業施設と同棟、別棟になるかはまだ決定していない。
この計画の中ではそこまで示すことはできないかと思う。布袋駅東複合公共施設は P F I か P P P になり、図書館としては要求水準書に規模等（全体規模、学習スペース、配架はこれだけ、というような）を示すことになる。具体的に何階に何を置いて、というところまではできないと思われる。
- 委員長：複合ということで、広さであるとか、スペースの仕様は言えても、細かい配置までは要求できないのか。
- 事務局：設計、施工は全て民間で行う。私たちは、江南市の図書館としてこれだけの大きさ、諸室の大きさなどといった面積の要求になる。确实なしほりではなく、要求・条件を示すことになる。
- 委員：江南市の人口規模に近い他の都市の図書館では面積が 4,000 m²以上のところもある。江南市においても誇れる図書館をつくりたいため、もう少し市民と情報を共有する場が必要ではないか。
- 事務局：協議事項（４）市民意向把握において具体的な話がある。
- 委員：規制が多いと感じる。市民が望むものを作ってほしい。委員会でもいろいろな図書館を知って知識を得た上で検討していきたいため、学習会を実施してはどうか。
- 委員長：事務局メンバーである図書館流通センター（以後 T R C）が情報を持っていると考える。
- 事務局：この後、（３）図書館を取り巻く環境の動向で T R C から説明がある。もし他の図書館の見学を希望されるのであれば視察を計画する。
- 委員：布袋駅東複合公共施設に図書館が移設されることによって、現図書館よりさらに南に図書館ができることになるが、北部の住民への説明はどのように行っていくのか。
- 事務局：（委員会の中で）布袋駅東複合公共施設に市立図書館を移設する内容について優先的にはお話しいただきたいが、この委員会についてはそれを決めるだけではなく、既存の施設を利用して分室を設けるなどの検討をしていただくことは十分できると考える。
- 委員長：既存の施設を利用する可能性もあるのか。
- 事務局：それも視野に入れていただいて、江南市全体の図書館行政をどうしていくかをご議論いただきたい。
- 委員：前提がないと、何度議論をしても前に進まない。前提の部分をいつまでに決められるのかを示してほしい。
- 事務局：第２回には（市民アンケート等を経て）素案のベースになるような、議論のたたき台になるようなものを示していきたい。

（２）今後のスケジュールについて

事務局：資料 1 - 3 を説明

- 委員：アンケートを6月に実施とあるが、図書館に対して強い思いを持っている市民の意見を十分汲み取れるのか。
- 委員長：アンケート等の実施計画は、後ほど（4）市民意向把握において説明する。
- 事務局：短い期間ではあるが、そういった方の意見をできる限り集めていきたい。
- 委員：8月に行われる第2回作業部会と策定委員会の検討項目が多くある中に図書館の蔵書規模と施設規模の検討があるが、第2回策定委員会で十分に検討する時間はあるのか。また作業部会の後の策定委員会との日程は詰まっているが余裕はあるのか。事前に配布された資料を検討する時間も必要である。
- 事務局：第2回策定委員会では、できれば資料を事前に配布し審議したいと考えているが、展開によっては臨時の策定委員会を行うことも考えられる。作業部会後の1週間後程度に策定委員会が行われる予定である。

（3）図書館を取り巻く環境の動向について

TRC：資料2を説明

- 委員：富山の図書館がとても楽しかった。3mのシロクマのモニュメントがあって子どもたちが家族連れでとても喜んでいて、そういうものもよい。各務ヶ原市の図書館も遊園地みたいになっていて、よいなあと思った。少子高齢化に対応するために、タブレットも図書館で今後必要になっているのでは。また、バリアフリー化も必要である。ある団体では読書会を行っており、2ヶ月に1回、文化会館を借りて行っているとのこと。図書館は6時半までで閉まってしまう。どんな時間に行っても開いている、24時間開館しているというような特色ある図書館を作ってほしいと思う。いろいろな蔵書をそろえている図書館を作ってほしいと思う。
- 事務局：図書館の役割が多様化していると考えている。図書を貸し出す、読むだけではなくサロンのような役割もあると思う。
- 委員：事例にあった安城市の図書館が江南市に建設できても意味はなく、江南市の特徴に合ったものが必要である。TRCとしては、現時点で江南市の人口規模や地域の特性等を踏まえて参考になる図書館情報はあるのか。
- TRC：これから地域の情報を把握することになり現時点では示すことはできないため、次回の委員会で示したい。もう少し、江南市の現状を把握し、それに近い形での図書館を（新設に限らず）ピックアップしていきたい。
- 委員：先進事例は面積が1万㎡近いところもあれば、2000㎡以下のところもある。面積はたくさんあったほうがよいに越したことはないが、例えば1800㎡のところは6000㎡のところと比べて、何を省いているのか、何を特徴としているのか。3000㎡と言われても、何を置いていいのかがよくわからない。その辺を教えてほしい。図書館の面積はどのように決めていくのか。
- 委員長：電子書籍や、本の形のもの、どういうものを置いていくのかということもある。
- TRC：人口規模がベースとなり、望ましい基準や他都市の事例も参考として、収蔵冊数を

設定して開架・閉架の面積を決め、どんな図書館にしたいかによっても諸室の仕様が変わってくる。それを積み上げて、最終的に蔵書数や面積を決定していく。

ただし、同じような人口規模の都市でも、蔵書数・面積にはかなり開きがある。

委員：TRCは全国的な情報を持っていると思うが、江南市として街全体としてどうしていきたいかという中の図書館だと思うので、江南市のまちづくりの中で図書館をどう位置付けるのか、少子高齢化対策を中心にするのか、市民協働の拠点とするのか、市としての方向というのもきちんと出していかないとなかなか進まないのではないかと思う。

(4) 市民意向把握について

TRC：資料3と別紙1～3を説明

委員：無作為抽出する市民アンケートでは、江南市の図書館しか利用していない回答者もいると想像する。そのような人たちにイメージがわきやすいように、TRCから説明のあった事例の資料を同封したり、図書館に全国の図書館の例を展示すると回答者のイメージが沸くと考える。ワークショップに関して図書館が近くにならない北部と新しくできる南部では意見が違ふと考えるため、できればそれぞれの場所で行ってほしい。

事務局：ワークショップは時間的な問題があるため予定通り1回とする。北部と南部の市民に集まっていたき一緒に実施する。

委員：アンケートにTRCから事例整理があった資料を同封することは、回答を誘導することになるため、気を付けなければならない。とても立派な事例を入れれば、そのような回答を誘導できるが、江南市に合った図書館を作りたいので、ニーズを正確に読み取らなければならない。

委員：ワークショップはいろいろな人の意見を聞いた方がよいので、できるだけ幅広い年齢層、地区から選んでいただくとよいと思う。

また、職員に関する質問項目がない。施設があって資料があって人がないとうまくいかない。機能を考える時は、こういうサービスがあってこういう対応をしてもらおう、というところまで市民の声を聞けるとよい。

事務局：アンケートに事例整理の内容を載せることは慎重に検討したい。

副委員長：問1-9で図書館を利用しない理由を尋ねているが、市外の図書館を利用している場合はどこの図書館を利用しているのかを分析するため、図書館名を記入してもらうのはどうか。利用していない人たちの声をもっと取り入れていけないといけないのでは。また、回答者によっては利用しない理由をひとつだけ選択するのは難しいと思うので、3つなどの複数選択にしてはどうか。

委員：利用者アンケートについて、対象が利用者約700名とあり、期間が1週間しかない。1週間に700人以上の来館があるのか。回収目標の400票に届かなかった場合臨機応変に対応するのか。融通がきくと思うので、もうちょっと期間を延ばし

てもよいかと思う。

委員：問2-1 今後の江南市立図書館でどんなことが出来れば良いと思うかについては、3つ選択では足りないと思像するため、5つ選択できるようにしてはどうだろうか。

委員長：委員から出た意見についてTRCから説明をして欲しい。

TRC：複数回答の回答数を増やしすぎると、集計結果に特徴が出ない可能性がある。また、回答者は選択肢を選んだ後に、その理由や内容を記入するものが増えれば増えるほど、負担に思いアンケートの回収率は下がり、全ての調査項目の回答数も減っていく。アンケート全体として設問の分量としてはA3で両面1枚が適当と考えている。問1-9 図書館を利用しない理由をひとつではなく複数回答することは検討するが、場合によってはアンケートの最終ページに自由記述欄を設けることも考え、図書館未利用者の意見については、ワークショップの参加者の声も参考としたい。利用者アンケートの対象数700名は1週間で可能だと考え、アンケート回収目標は400票であるが、1週間で400票集まらない場合は臨機応変に対応する。問2-1 今後の江南市立図書館に望む回答数を3つ選択ではなく5つ選択することは集計結果に特徴が見えなくなる可能性があるため3つまでとしたい。

委員長：アンケートを行うことでどのような情報が集まるのかは、TRCが過去の経験から把握していると想像できる。市民アンケート、利用者アンケートは集計後使えるデータが集まらないと意味はないため、委員の意見を参考しながら検討してほしい。

【第1回江南市図書館基本計画策定委員会 終了】